

令和4年度第1回庄原市特別支援教育研修会

令和4年5月27日（金） 庄原市総合体育館 2階会議室

特別な支援を必要とする児童生徒の適正な就学指導及び特別支援学級における適正な教育課程編成と教科用図書選定について周知することを目的に、研修会を行いました。

【講話】「特別な支援を必要とする児童生徒の適正な就学指導について」

庄原市教育委員会 教育指導課 学事係長兼主任管理主事 高淵 直哉



◆幼保小中学校間で就学に関する連携が一層進むよう、就学指導に関する講話を行った。

- ・当該児童生徒の将来的な自立や社会参加のために必要な力を培うという視点で、本人の教育的ニーズ等を踏まえた総合的な観点から就学先を決定する。
- ・就学指導に関しては、保護者、学校間、関係機関等との計画的な連携が必要である。特に、保護者へは、学期末の懇談の時のみでなく、日頃から定期的に学校の実情を情報提供していくことが大切である。継続的な教育相談を行い、「個別の教育支援計画」等は定期的な見直しを行う必要がある。

【講話・演習】「特別支援学級の教育課程の編成について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 片山 博子



◆特別支援学級において、当該児童生徒の障害の状況及び発達段階に応じた教育課程を編成する際の留意事項等について周知・理解を図るため、講話・演習を行った。

- ・教育課程編成に当たっては、当該児童生徒の実態把握を十分に行うことが重要である。その際に、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活用する。
- ・児童生徒の実態に応じた、適切な指導が行われるよう、指導内容や時数、指導形態等に留意する。教科等を合わせた指導（生活単元学習、作業学習等）の内容や交流のもち方には、特に留意する必要がある。

【講話・協議】「特別支援学級で使用する教科用図書の選定について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 砂走 敏和



◆特別支援学級で使用する教科用図書選定や事務手続きに係る留意事項等についての講話と、各校が使用している教科用図書について、実際の本を提示しながらグループ交流を行った。

- ・児童生徒の実態や教育課程と整合性のとれた教科書を選定する必要がある。
- ・他校で使用する教科用図書（一般図書）を知ることにより、自校の教科用図書選定の参考にする。

【参加者の振り返りより】

- 児童生徒の実態や保護者の意向を尊重しつつ、児童生徒の可能性を最大限発揮できるように、連携を細かに行っていくことが大切であると感じた。
- 保護者に就学についての具体的なイメージをもってもらうための取組が必要であると感じた。保護者と連携をとることで、家庭でも学校でも一貫した教育を行っていきたい。
- 教育課程については、児童生徒の実態把握を行い、本人の特性に合わせて指導項目を決定していく必要性を学んだ。児童生徒の将来や進路を見据えた教育課程になるように取り組んでいく。
- 教科書選定では、児童生徒の実態、興味関心に合わせて選定していくこと等の大切さがよく分かった。幼・保・小連携や関係機関との相談や連携を早くから行う必要があると感じた。